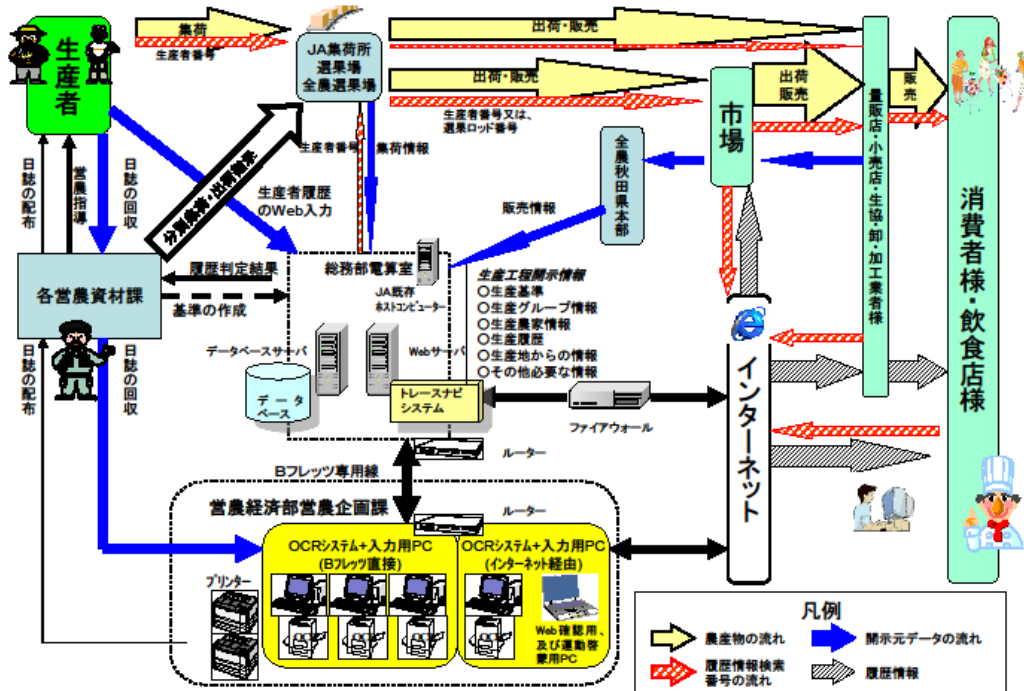


JA秋田ふるさと安全・安心システムの概要

JA秋田ふるさとトレーサビリティシステム概要図(青果物等)



JA秋田ふるさと安全・安心システム機器の特徴

1) データ入力

(1) Web形式の採用により、入力場所の固定化から脱却

データベース構築にあたり、Web形式での入力方法であるため、どのPC機種からも、さらにはどの場所からもインターネット経由で入力出来る方式を採用。このことにより、処理センター以外にも、各地域営農センターからの代行入力も対応可能。

また各集荷所や米倉庫からの入力といった、インターネットに接続できる環境設定で、データ入力・データ閲覧が可能。

(2) インターネット経由での生産者自らの履歴入力も可能

“紙”による入力集約をメインとしながらも、システム自体をWeb形式にしたことにより、インターネット経由で生産農家自ら、直接入力・履歴報告ができる方式の採用

(3) 高性能JA秋田ふるさと専用OCRシステムを開発

2) データベース構築とデータ公開

(1) 紹介ホームページの自動作成

栽培履歴情報を、ホームページによる遡及可能システムとするが、その作成に当たっては、システムが自動で集計更新できるシステムを採用。

(2) 栽培期間中であっても随時閲覧・公開可能

Web型の採用により、恒に最新の栽培履歴情報がホームページ上で閲覧可能。

(3) 栽培履歴の確認が随時可能でしかも容易

Web型なので、インターネットへ接続できる環境であれば、生産者別の履歴の確認がどこからでも可能。(但し、管理者権限により、閲覧可能者を限定)

(4) 農家向け情報提供ページも対応

今回のシステムの基本的考え方として、消費者向けのトレーサビリティ対応のみならず、生産者向けの情報提供も対応できるシステムとして構築。

(5) 将来のトレーサビリティツールにも対応

将来予測される農産物へのデータ貼り付け(ICチップ、二次元バーコード、トレーディーカードなどの農産物への添付)が可能なシステム。